

日本の司法福祉の源流をたずねて

日本の司法福祉を作り上げてきた先人の名著を復刊!

第1巻 獄務要書

(第1回配本)

小河 滋次郎・著

(小野 修三・解題)

定価:本体7000円+税 A5版上製クロス装函入208頁 ISBN978-4-86330-162-7



小河 滋次郎

看守(刑務官)とは何か? どうあるべきか?

旧監獄法、感化法や国立感化院、方面委員(後の民生委員)制度の確立に尽力した小河滋次郎による監獄論!小河滋次郎に関する優れた伝記的研究のある小野修三(慶應義塾大学名誉教授)氏による解題付き。現代表記による改訂新版。

2016年5月上旬刊行!

[著者略歴]: 小河 滋次郎(おがわ・しげじろう)

法学者。旧制東京専門学校(現・早稲田大学)法律学科、東京大学法学部別課法学科で学ぶ。法学博士。内務省警保局監獄課に配属され、ドイツに留学し監獄状態を視察、万国監獄会議に出席。警視庁典獄となり、旧監獄法、感化法および方面委員(後の民生委員)制度の確立に尽力。中国(清国)政府に招かれ、獄制改革を指導。国立感化院(現・国立武蔵野学院)の設立に携わり、同院の院長事務取扱も務めた。(1864-1925)

シリーズ「日本の司法福祉の源流をたずねて」刊行にあたって

近年、体感治安の悪化により、いわゆる刑罰の「厳罰化」を求める声も大きくなっている。少年法も適用年齢引き下げの議論が行われている。しかし、一般刑法犯検挙人員中の再犯者の占める割合(再犯率)は、年々高まり、平成26年では47.1%となっている。これは一度罪を犯すと立ち直るのが難しいということを物語っている。社会に「居場所」と「出番」がなく、そうかといって福祉サービスを十分に受けられないために、犯罪を繰り返しては刑事施設の中で生活する人も多い。日本の犯罪率と再犯率を下げるために司法福祉の充実が急務である。これからの日本の司法福祉はどうあるべきか。それについて考えるために、その源流を再確認することは重要である。先人たちの名著をひもとくことによって、現在の問題と、これから進むべき道がより深く見えてくるに違いない。

【今後の予定ラインナップ】

- | | | |
|----------------|------------|------------------------------------|
| 第2巻 感化事業とその管理法 | 留岡 幸助・著 | 予価:本体7000円+税 ISBN978-4-86330-163-4 |
| 第3巻 ひしがれたる者の呻き | 原 胤昭・著 | 予価:本体7000円+税 ISBN978-4-86330-164-1 |
| 第4巻 少年保護の法理と実際 | 宮城 長五郎ほか・著 | 予価:本体7000円+税 ISBN978-4-86330-165-8 |
| 第5巻 司法保護事業概説 | 森山 武市郎・著 | 予価:本体7000円+税 ISBN978-4-86330-166-5 |

★ 全巻予約受付中(分売可)

※各巻平均頁数:250頁

発行:(株)慧文社 〒174-0063 東京都板橋区前野町4-49-3 TEL 03-5392-6069 FAX 03-5392-6078
 小社の書籍は、全国の書店、ネット書店、TRC、大学生協などからお取り寄せ可能です。 <http://www.keibunsha.jp/>

5月の新刊

帳合	様	(株)慧文社 〒011-5392-6069 Fax 011-5392-6078
	部数	冊
		定価: 本体7000円+税 獄務要書 (日本の司法福祉の源流をたずねて 1) 小河滋次郎 著 小野修三 解題 ISBN978-4-86330-162-7 C0332 ¥7000E

〒174-0063 東京都板橋区前野町4-49-3
 (株)慧文社
 電話03-5392-6069 FAX03-5392-6078